



青少年育成

かづの

令和6年3月31日

第32号

青少年育成
鹿角市民会議

令和5年度
青少年を育てる市民のつどい
・PTA活動を考える会



会長
高杉奈穂子

本年度の「市民のつどい」は、かづのPTA連合会との共同事業として、去る令和5年11月25日(土)、約100名の参加のもと、エスポワールかづのを会場に開催しました。

はじめに、青少年健全育成成功労者表彰を行い、鹿角民話の会とつとはらえ、工藤広治氏に対し表彰状を贈呈しました。

子ども芸能発表では、尾去沢からめ節保存会の皆様

をお招きし、日ごろの練習の成果を披露していただきました。

続いての講演では、月宗寺(藤里町)住職の袴田俊英氏を講師に、「『社会』と『世間』— 青少年の生き心地の良さを考える—」と題してお話しいただきました。参加者の皆さまからご好評の声をいただき、盛会裏に終了しました。



講演
「『社会』と『世間』
— 青少年の生き心地の良さを考える—」
講師 月宗寺 住職 袴田俊英様



曹洞宗月宗寺の住職を務める傍ら、平成5年から自死問題に取り組み、藤里町にて自殺予防の会「心といのちを考える会」の会長を務めています。「心といのちを考えるフォーラム」などの啓発活動、コーヒースロン』よつてたもれ』などのつながりづくりを精力的に行っているほか、ご自身の活動や研究についての講演を、県内で多数行っています。

講演では、「追い込まれたうえでの死」と言われる自死がコロナ禍に減少傾向となった要因を、外出自粛やテレワーク、リモート授業などにより「人とのつながりから逃れられた」と考え、「人のつながりが人を追い込むのではないか」との仮説を、日本特有の「世間」という観点から

ら論じました。

「世間」には昔から「人に迷惑をかけてはならない」という掟が存在し、田舎では特にその傾向が強く、コロナ禍にあつても自分が罹患するよりも人にうつしてしまふことを恐れていました。

現在の社会では「世間」の根底にある強い「自己責任」感と、他に対する「不寛容」により人は追い込まれています。人々の考え方は時代を経て「迷惑をかけたくない」から「迷惑をかけられない」へと徐々に変化し、「世間」から離れるためにはひきこもるしかないのだと言います。

最後に、自分の中の迷惑をかけられたくないという気持ちに気づき、少しの迷惑ならかけられてもよいという寛容の心を一人ひとりが持つことが、若者の自死を防ぐことにつながるとまとめました。

子ども芸能発表発表者活動紹介
尾去沢からめ節保存会

鹿角地方にはかつて、金や銅を掘っていた大小の鉱山が多数ありました。からめ節金山踊りは、尾去沢鉱山で働いた坑夫や手選婦の仕

事の中から生まれた素朴な作業唄と踊りの芸能です。

からめとは良い鉱石を細かく打ち砕き、ざるで水洗いし、鉑(精選した鉱石)を採取する人の手による選鉱



作業のことです。唄は活気に満ちた鉱山の様子をうたい、踊りは女が槌とざるで選鉱作業を行う様子を表しています。

からめ節金山踊りは鉱山民俗芸能として全国的にも大変貴重なものであり、鹿角市指定無形民俗文化財に指定されています。つどい

では「からめ節金山踊り」、「花見帰り」、「鹿角あいや節」を披露していただきました。



**青少年健全育成功労者
鹿角市民会議会長表彰
鹿角民話の会ごっつはらえ様**

市内児童生徒を対象に、鹿角に伝わる伝説・民話の語り手を育成する「子ども語りべ講座」や小学校の正課クラブでの昔語り等を実施されています。子どもの昔語りの発表の場として「鹿角の昔つこのつどい」子ども語りべのつどい」を開催するなど、鹿角の民話を継承すべく、子どもたちとの交流を図りながら活動を行っています。長年にわたる活動により青少年の健全育成に尽力されました。

工藤 広治 様



平成2年から秋田県警察本部長より少年保護育成委員として委嘱され、以降令和元年より同会会長として児童生徒に対する毎月の声かけ運動、祭典等での巡回・指導、座禅会や意見発表会を開催、参加するなど、青少年の健全育成に関するボランティア活動に精



令和5年度総会

本年の青少年育成鹿角市民会議総会は去る6月23日(金)、市役所会議室を会場に開催しました。冒頭、「NPO 幸せサポートいろいろ」代表の大西奈美子様より、同団体の活動内容の紹介とともに、今後の鹿角地域における青少年育成の展望についてご講話いただきました。議事では令和4年度事業報告と収支決算報告、令和5年度事業計画案と収支予算書案について、それぞれ原案通り認定、承認されました。

**講話
幸せサポート
いろいろ団体紹介
活動報告**

講師 大西奈美子様

幸せサポートいろいろでは、十和田末広地区の空き家を活用し、貧困家庭に物資の支援を行っています。また、現在はNPO法人設立のため、本格的に活動を続けています。

ふるさと少年探検団



市内の小学生を対象に、地域の歴史や文化について体験する「ふるさと少年探検団」事業を行っています。楽しく学びながら郷土への理解と愛着を深めてもらう

普段の活動として、協賛団体から寄贈された物資を、重量のチェックをしながら消費期限ごとに仕分けをし、月1回配布しています。また、予算に余裕のある月は生鮮食品を購入し、併せて配布することもあります。そして、フードドライブ事業として、地域内のスーパーマーケットに専用のボックスを設置し、家庭内の余った食材等を寄贈してもらう取組も行っています。事業に賛同いただける方はぜひ会員になっていただき、支援の輪を広げていきたいと展望を述べられました。

ことを目的としており、今年度は6月29日(木)に八幡平小学校4年児童20名を招待し実施しました。

児童らは、大湯ストーンサークル館内の展示及び、史跡尾去沢鉱山を見学しました。

大湯ストーンサークル館では、当初大湯環状列石を見学する予定でしたが、降雨のため予定を変更し、「大湯SCの会」のガイドの方から遺跡に関する説明を受けながら、2つの環状列石が持っていた役割や遺跡としての価値、周辺から発掘された土器や土版について学びを深めました。



尾去沢地区の史跡尾去沢鉱山では、鉱山ガイドの説明を受けながら坑道内を

歩き、鉱山の歴史や採掘方法、鉱脈について学びました。

どちらも見学したことのある児童は少なく、「今度家族と一緒にゆつくり見て回りたい」「見たことのないものをたくさん見られた」との感想が寄せられました。



青少年の非行・被害防止 強調月間における啓発活動

次代を担う青少年の育成は、地方公共団体、関係団体等がそれぞれの役割及び責任を果たしつつ、相互に協力しながら地域が一体となった取組を進めることが

必要です。毎年7月を強調月間とし、青少年の非行・被害防止について理解を深める活動を行っています。今年度は、8月6日(日)に実施された、快適環境まちづくり市民会議主催の米代川クリーンアップにて、当市民会議として参加するとともに、クリーンアップ参加者に対し青少年非行防止の啓発活動用物品の配布を行いました。

声かけ運動

当市民会議では、市民の皆様のご協力のもと、毎月5



日(5日が休校の場合は翌日)を「声かけ運動の日」として、学校の長期休みのある8月と1月を除き年10回実施しています。

朝の子どもたちの登校時間に合わせ、「おはよう」「気を付けていってらっしゃい」と声をかけながら通学路に立ち、子どもたちが安全に登校できるよう見守り活動

白ポスト回収

「白ポスト」とは、性や暴力など、青少年に有害な雑誌、ビデオ、DVD等を「家庭に持ち込ませない・青少年の目に触れさせない」ために投入を呼びかける箱のことです。市内では鹿角花輪駅前、十和田南駅前設置されています。

行っています。「声かけ運動」で、子どもたちが元気にあいさつできる習慣が身につく、地域のつながりが深まるとともに、防犯にも効果があるといわれています。



今年度は2度回収作業を実施し、有害図書類1点、不適図書類(有害な記事を含む新聞・雑誌等)140点を回収しました。



